



平成24年2月16日

アジア人の前立腺癌体質を解明：国の最高評価

- 前立腺癌を対象として、アジア人の癌体質の遺伝子解析と遺伝子治療について岡山大学は、海外の研究機関（中国、韓国、シンガポール）と国内研究機関（北里大学）と共同して実施しました。
- 結果として、東アジア人における前立腺癌に罹患しやすい体質の遺伝的特性を解明することができました。遺伝子治療臨床研究に関しては IL-12 遺伝子治療における安全性と臨床的効果を世界に先駆けて確認することができました。
- このたび科学技術振興調整費による実施プロジェクトとしての事後評価において、所期の計画を越えた取り組みが行われたとして最高評価の「S」判定を受け、政府の総合科学技術会議において報告されました。
- さらに今回の事業を通じて複数の新たな東アジア科学コミュニティーが形成され活動が開始されました。2月25日中国蘇州において「第1回東アジア遺伝子治療推進懇話会」が開催されます。

<事業の概要と目的>

岡山大学（代表者：公文 裕巳）では国の国際共同研究の推進事業（先端技術創出国際共同研究）を平成20—22年度実施しました。前立腺癌における「アジア人の癌体質の遺伝子の解析と個の医療への展開としての免疫遺伝子による臨床試験に関する国際共同研究」として、遺伝子1塩基多型(SNP)の解析と免疫遺伝子 Interleukin-12(IL-12)による遺伝子治療に関する医師主導の探索的臨床研究を実施しました。（国外参画機関名：北京大学、浙江大学、韓国カトリック大学、シンガポール総合病院／国内参画機関：北里大学）

<目的>

学術的な成果はもとより海外の研究機関との共同研究の実施を通じ、アジアにおける信頼性の高いトランスレーショナルリサーチ(TR)の発展に寄与し、日本が主導しイノベーションの実現をもたらす東アジア科学技術コミュニティーを構築することを目的とした事業です。

<研究成果>

アジア人における前立腺癌に罹患しやすい体質の遺伝的特性を解明することができました。遺伝子治療臨床研究に関しては IL-12 遺伝子治療における安全性と臨床的効果を世界に先駆けて確認しました。

<今後の展開>

今回の事業を今回の事業を通じて新たな継続的かつ発展的なネットワークが複数形成されたことは特筆すべきこととみなされています。主な取り組みとして平成23年2月に「東アジア遺伝子治療推進懇話会」、平成23年3月に「Asia Pacific Prostate Society (APPS)」が発足しました。「第1回東アジア遺伝子治療推進懇話会」は中国・精華大学健康科学基金、岡山大学ICONT(ナノバイオ標的医療イノベーションセンター)の主催で開催されます。

<お問い合わせ>岡山大学病院・
新医療研究開発センター 那須 保友
(電話番号)086-235-7287
(FAX番号)086-231-3986